

一貫教育校の広場

ニューヨーク学院
(高等部)

女子高等学校

志木高等学校

高等学校

湘南藤沢
中等部・高等部

中等部

普通部

横浜初等部

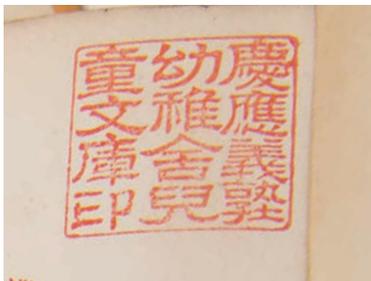
幼稚舎

蔵書印でたどる幼稚舎の歴史

幼稚舎には特別書庫と呼ばれる一室があり、数種類の特殊コレクションを所蔵しています。代表的なものは吉田小五郎先生が舎長の時代に始まった曾田文庫で、福澤先生や慶應義塾に関する資料が収集されています。児童文学を研究されていた桑原三郎先生が昭和35（1960）年に発足させた山田文庫は、福澤先生の子ども向けの著作に加え、明治期から昭和期の児童文学に関する貴重書が中心です。

特別書庫にはほかにも未整理の図書資料が多々収蔵されているため、幼稚舎では平成26（2014）年度より書庫の整理に着手しました。その過程で昔の幼稚舎生が手にした本が次々に発見されました。それらの本にはさまざまなお蔵書印が押されていました。幼稚舎創立者と田義郎先生の蔵書印、幼稚舎が三田にあった明治期の小学校幼稚舎時代の蔵書印、昭和19年に幼稚舎が疎開をした伊豆修善寺の疎開学園の蔵書印等、見つかった蔵書印は20種近くに及びました。

平成27年度からは元慶應義塾図書館長の田村俊作名誉教授に書庫整理と一連の蔵書印調査の監修をお願いしました。先生のご指導のもと、吉田小五郎著『稿本慶應義塾幼稚舎史』、鈴木信弘編『慶應義塾幼稚舎史資料集三田評論編』をはじめ、幼稚舎の機関誌などから「図書室」や「本」について言及している記事を探しました。特に卒業生の臨場



昭和8年頃の幼稚舎生の写真と蔵書印の例（大正期の「慶應義塾幼稚舎児童文庫印」）

感溢れる図書室や本への思い出が綴られた回想記と先生方の直筆の原簿は、蔵書印の年代推定に大いに役立ちました。本年6月の幼稚舎での連合同窓会の折には、明治7（1874）年の幼稚舎誕生から昭和49年の創立100年までを対象にした展示会「蔵書印でたどる幼稚舎の歴史」を開催し、冊子の作成や蔵書印と本のお披露目も実現しました。

明治31年の慶應義塾の学制改革で幼稚舎は6年制の小学校になりました。寄宿舎内にも通称「図書館」があり、幼稚舎生は雑誌『少年』などを心待ちにして読んでいました。幼稚舎では大正8（1919）年頃から児童読み物を収集する気運が高まり、大正11年には児童文庫室が完成しました。現在の蔵書印に繋がる「慶應義塾幼稚舎児童文庫印」、卒業記念基金を元に「慶應義塾幼稚舎コドモ図書館印」も作られました。有島武郎や島崎藤村等の文学、歴史読み物、伝記等、この時期の本の充実ぶりは実に見事です。

三田の稲荷山の石垣に腰掛け、楽しげに本を読む子らの写真は昭和8年頃の幼稚舎生を写したものです。少し手垢のついた本からは彼らの手の温もりまでもが伝わってくる気がします。蔵書印を通じて時代の様子を読み解く作業は奥深いものです。今後とも一連の調査に努め、いつか皆様に実物をご覧いただければ幸いです。

●元幼稚舎司書教諭

白井文子しらいあやこ